

漢法苞徳塾資料	No. 093
区分	基礎理論・東鍼講義録
タイトル	五行論
著者	八木素萌
作成日	1995.01.10

◇十干の五行と臓腑経絡（『十二経納天干歌』より）

甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸
木	木	火	火	土	土	金	金	水	水
胆	肝	小腸	心	胃	脾	大腸	肺	膀胱 三焦(相火)	腎 心包(相火)

◇十二支の五行と臓腑経絡（『十二経納地支歌』より）

子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥
水	土	木	木	土	火	火	土	金	金	土	水
胆	肝	肺	大腸	胃	脾	心	小腸	膀胱	腎	心包	三焦

◇十干十二支と人身への配当（『五行大義』の説より）

甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸
頭	頭	胸脇	胸脇	心腹	心腹	股	股	手足	手足

子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥
頭	胸臂	手	肌脇	尻肱	脛	足	脛	尻肱	肌脇	手	胸臂
亦 腎	脾	肝	肝	脾	心	心	脾	肺	肺	脾	腎

木	甲乙・寅卯	皮毛（地上）または肝
火	丙丁・巳午	爪筋（猛穀）または心
土	戊己・辰戌丑未	肉（持載）または脾
金	庚辛・申酉	骨（堅剛）または肺
水	壬癸・亥子	血脈（流潤）または腎

◇日干支数

「八法逐日干支歌」より

	丁	戊	甲	乙	丙
	壬	癸	己	庚	辛
数	8	7	10	9	7
	寅	巳	辰丑	申	亥
	卯	午	戌未	酉	子

◇五行循環

	旺	相	死	囚	休
春	木	火	土	金	水
夏	火	土	金	水	木
長夏	土	金	水	木	火
秋	金	水	木	火	土
冬	水	木	火	土	金

◇天干地支数

天干	甲己	乙庚	丙辛	丁壬	戊癸	
地支	子午	丑未	寅申	寅申	辰戌	巳亥
代表数	9	8	7	6	5	4

◇五運

「類經図翼」より

土運	金運	水運	木運	火運
甲巳	乙庚	丙辛	丁壬	戊癸

◇十二支と時辰A(時間)と臓腑の旺気

子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥
23~1	1~3	3~5	5~7	7~9	9~11	11~13	13~15	15~17	17~19	19~21	21~23
胆	肝	肺	大腸	胃	脾	心	小腸	膀胱	腎	心包	三焦

◇十二支と時辰B(月)

子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥
11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
冬	冬	春	春	春	夏	夏	夏	秋	秋	秋	冬

(旧暦)

◇季節の土用について

立春前 18 日

立夏前 19 日

立秋前 18 日

立冬前 18 日

所謂長夏は、立秋から白露の前日までの 31 日と夏土用 19 日で、合計 50 日とされる。

主気は熱鬱・湿熱とされている。代表的な病証は中暑・伏暑とされている。

「一歳四時之候・皆統於十二辰・十二辰者・以斗綱所指之地・即節氣所在之處也」

『類経図翼』より

☆参考 節気表 (二十四気七十二候)

二十四気斗綱表

節気……立春・雨水・啓蟄・春分・清明・穀雨・立夏・小満・芒種・夏至・小暑・大暑・
 立秋・処暑・白露・秋分・寒露・霜降・立冬・小雪・大雪・冬至・小寒・大寒

五日が一候であるから $24 \times 3 = 72$ 候となる

◇陰陽五行の生成

『類経図翼』より

太極→両儀・四象→陰陽・剛柔→五行

(…陰陽生天・剛柔生地…)

天の四象＝日月星辰

(…日月星辰交而天体尽…)

地の四象＝水火土石

(…水火土石交而地体尽…)

太陽→日・太陰→月・少陽→星・少陰→辰

太柔→水・太剛→火・少柔→土・少剛→石

「陽に本づく者は上に親しみ、陰に本づく者は下に親しむ

天に在りては風雲雷雨と為り、地に在りては河海山川と為る」

「物之大者・莫若天地・天之大・陰陽尽之・地之大・剛柔尽之・陰陽尽而四時成・剛柔尽而四
 維成・四象既分・五行以出・而為水火木金土・……陰根於陽・陽根於陰・陰陽相合・万象
 乃生・……」

◇生成数について

生数	天一生水	地二生火	天三生木	地四生金	天五生土
成数	地六成之	天七成之	地八成之	天九成之	地十成之

◇白虎観と白虎通

後漢の章帝の建初4年（79）に諸儒（博士・諸生）を宮廷（白虎観）に集めて五經の異同を講論させた。それが白虎観會議とも言われるもので、その結果を班固がまとめたものが「白虎通」（白虎通義とも言われている）である。清の陳立の「白虎通疏証」がある。ここで陰陽五行論は最終的にまとめられた。

◇五行論については、「五行大義」（蕭吉）が先秦より隋にいたる五行説を蒐集してそれを組織的に整理し分類した書であると、中村璋八が彼の研究書の中の解説に記述している。これと、「白虎通」を研究すると良い。なお、蕭吉は梁の武帝の兄とされている。

◇中村璋八は「五行大義」研究の権威である。「たにぐち書店」から平易な解説書を出版している。

◇見落とせないのは「五行思想と礼記月令の研究」（汲古書院、刊――島邦男著）である。

◇『類経図翼』（明・張景岳）の巻1～巻2は運氣を説明しているが、医学への陰陽五行論の採用の姿が深く理解できるような記述にもなっている。

◇剛柔の相配 （別表）〈臟腑経脈の剛柔の相関〉

◇相生・相剋・相侮など

◇五邪…これには二義がある

- 1：木火土金水の性質を持った邪である。この考え方では春夏秋冬および夏土用の気が邪となる場合を意味したり，東西南北および中央の方位の気が邪となる場合を意味したり，成長化収蔵と言う季節の気の基本的な働きや，温暑湿燥寒の気が大過であったり不及であったりの，人身への影響の意味であったり，また，これらの意味が相互に重なりあったりした用法で語られたりする。六因を五行的に分類して五邪と言う場合も同じである。
- 2：正邪・虚邪・実邪・微邪・賊邪という病証と病邪の位置関係を言う場合がある

擲筆 H7・1・10